

## 実えんどう

農薬取締法上、「実えんどう」は「さやえんどう」や「えんどうまめ」とは別の作物である。  
 (さやえんどうの項 参照)

「実えんどう」には、「実えんどう」「豆類(未成熟)」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

——— 発病・加害時期  
 = = = 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき						■					●●	
					収穫						は種	
苗立枯病(リゾクトニア菌)											———	
うどんこ病				———	———							
褐斑病				———	———							
ウイルス病類				———	———							
アブラムシ				———	———							———
ナモグリバエ				———	———							———

### 苗立枯病

#### 防除方法

- 1 連作を避ける。
  - 2 本ぼを土壤消毒する。(XⅢ土壤消毒 参照)
    - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
- 【リゾクトニア菌 20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する  
 は種または定植21日前/1回】

### うどんこ病

#### 留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

#### 防除方法

- 1 密植を避け、通風を良くする。
- 2 チッソ質肥料の過用を避ける。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [サンヨール](#) <M1> 【500倍 前日/4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000～5000倍 前日／5回】
- ・ [シグナムWDG](#) <<1 1>> <<7>> 【1500～2000倍 前日／2回】
- ・ [ガッテン乳剤](#) <U 1 3> 【5000倍 前日／2回】
- ・ [サンクリスタル乳剤](#) <->  
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく）300～600倍 前日／-】

## 褐斑病

### 防除方法

- 1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
  - 2 密植を避け、通風を良くする。
  - 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【2000倍 前日／3回】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

### 防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。【アブラムシ類の項 参照】
- 3 除草を徹底する。

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドの総使用回数は3回以内（定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
- ・ [アドマイヤー1粒剤](#) <4 A>  
【豆類（未成熟、除えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめ） 3kg／10a  
まき溝土壌混和 は種時／1回】または  
【豆類（未成熟、除えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめ） 2g／植穴（ただし、  
6kg／10aまで） 植穴土壌混和 定植時／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B>  
【豆類（未成熟、除さやいんげん） 4000～6000倍 前日/3回】
- ・ [ウララDF](#) <2 9> 【2000～4000倍 前日/2回】
- ・ [オレート液剤](#) <-> 【野菜類（除いちご） 100倍 発生初期（前日）/-】

## ナモグリバエ

### 留意事項

- 1 散布開始適期は3月下旬である。

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフーム乳剤](#) <6>  
【豆類（未成熟、除さやいんげん） ハモグリバエ類 2000倍 3日/2回】
- ・ [プレバソンフロアブル5](#) <2 8> 【ハモグリバエ類 2000倍 前日/3回】
- ・ [プレオフロアブル](#) <UN>  
【豆類（未成熟、除さやいんげん） ハモグリバエ類 1000倍 前日/2回】
- ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【ハモグリバエ類 5000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。